

経営比較分析表（令和2年度決算）

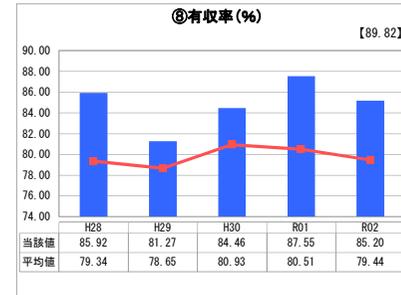
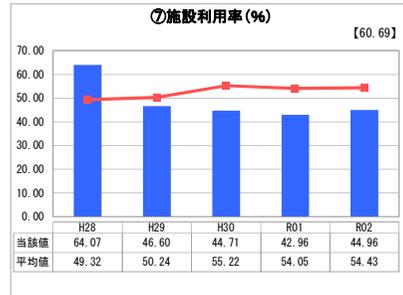
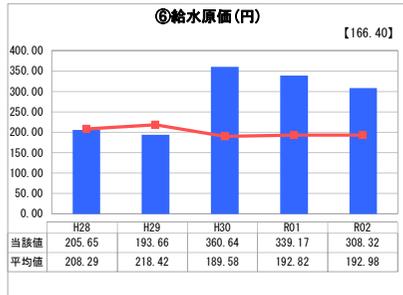
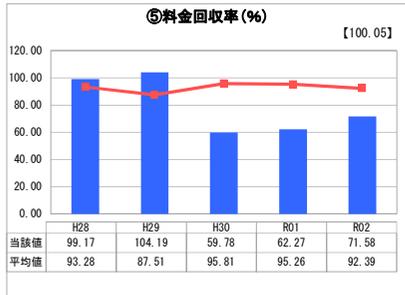
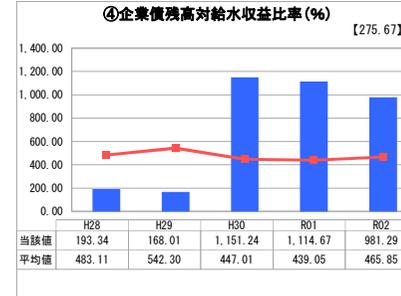
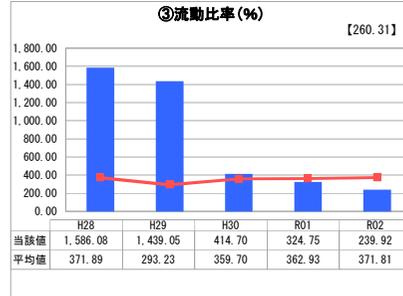
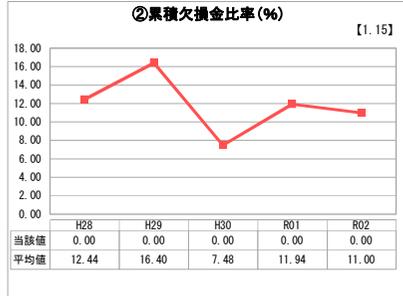
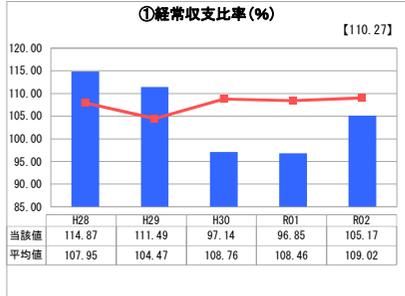
岡山県 鏡野町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A7	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)	
-	61.81	95.82	4,400	

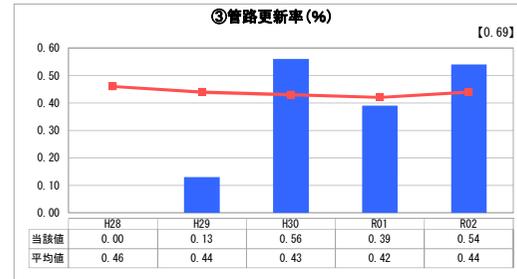
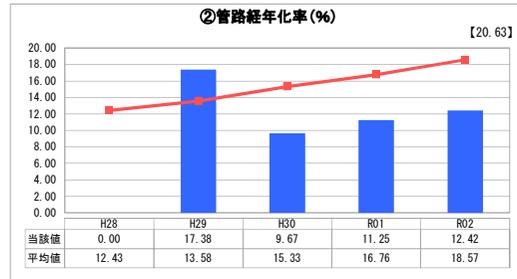
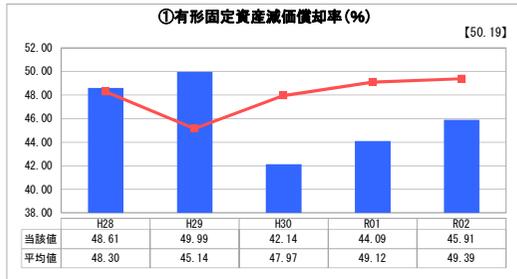
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
12,739	419.68	30.35
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
12,123	56.03	216.37

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率
平成30年度の簡易水道事業統合に伴いH30、R1年度は赤字経営となったが、R2年度に料金値上を行ったこともあり、再び黒字に転じた。
- ②累積欠損金比率
近年欠損金は全く発生しておらず、繰越利益剰余金にも余裕があるが、将来的に給水収益は減少していくことが予測されるため、維持管理費等の経費節減に取り組んでいく必要がある。
- ③流動比率
現金預金の減少及び未払金・翌年度償還予定企業債の増加により比率が減少し、類似団体平均値を下回った。旧簡易水道の起債償還額の影響が大きい。
- ④企業債残高対給水収益比率
企業債の償還により比率が微減となったが、引き続き類似団体平均値を大幅に上回っている。
- ⑤料金回収率
R2年度からの料金値上の影響で10%近くの増加となったが、依然給水に係る費用が給水収益で賅えていないことを表している。
- ⑥給水原価
経常費用の減少に伴い微減したが、引き続き類似団体平均値を大きく上回っている。
- ⑦施設利用率
新型コロナウイルスの影響で、全体的に配水量が増えたため、利用率が増加した。
- ⑧有収率
前年度に比べ寒波による漏水等が多かったため有収率が減少したが、依然類似団体の平均以上の有収率を確保している。

2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率
平成30年度に簡易水道事業を統合したため、前年度から類似団体平均値を大きく下回っている。旧簡易水道分の有形固定資産が比較的新しいことを示している。
- ②管路経年化率
平成30年度の簡易水道事業統合に伴う経過年数の少ない資産の増加により、引き続き類似団体平均値を下回っている。
- ③管路更新率
平成29年度からの管路更新事業の計画に基づき当年度も老朽配水管の更新を実施した。

全体総括

平成30年度に簡易水道事業を統合したため、赤字経営に転落し令和元年度も損益上の赤字決算となった。令和2年4月お水道料金値上げや経営努力を行った結果、当年度は再び黒字に転じた。令和3年度から配水池等の大規模な施設更新を行っているため、収支の効率化をより一層図りながら不要な資産の除却もあわせて進めていくことが今後の課題である。